

令和5年度

第2回学校運営協議会



令和5年6月14日（水）13：20

浜松市立東小学校

次第

1 校長挨拶、校内視察の視点 《司会：船越 記録：原》

2 校内視察 13:30～14:00

※資料 「学年団別重点目標」、「学年経営案」、「授業参観会 授業案内」（当日配付）等を参考に、各学級の授業を御覧ください。

～14:00までに、会議室にお戻りください。～

〈開催要件（過半数の出席）確認〉

3 会長挨拶

4 議長の選出（出席した委員の中から互選）

5 前回会議録確認

6 熟議 《議長： 》

（1）キャリア教育を生かした特色ある学校づくりについて

・キャリア教育の取り組みについて

「見つめる力」「かかわる力」

（校長説明→質疑・応答→熟議）

（2）学校評価について

・学校評価実施計画・評価項目の設定について・評価方法について

（教務説明→質疑・応答→熟議）

7 報告

※学校支援CDからの活動報告等

8 連絡

（1）次回開催予定

令和5年9月11日（月） 9:00～10:30 会場：本校会議室

（2）次回議長選出

（3）次回熟議内容確認

（4）学校評価アンケート記入

2 学校運営協議会出席者名簿

◇学校運営協議会委員

会長	小名木 秀雄	こなぎ ひでお
副会長	高木 邦子	たかぎ くにこ
委員	松下 克幸	まつした かつゆき
委員	今中 秀裕	いまなか ひでひろ
委員	中川 清子	なかがわ きよこ
委員	中村 将義	なかむら まさよし
委員	杉山 晴康	すぎやま はるやす
委員 学校支援コーディネーター	大脇 加名	おおわき かな
委員 学校支援コーディネーター	竹山 有希	たけやま ゆき

学校支援コーディネーター

古橋 陽介	ふるはし ようすけ
-------	-----------

◇学校

校長	大石 泰三	おおいし たいぞう
教頭	杉山 章子	すぎやま あきこ
CS担当教職員	船越 裕康	ふなこし ひろやす
CSディレクター	原 真衣子	はら まいこ

◇浜松市教育委員会

教育総務課	鈴木 陽子	すずき ようこ
-------	-------	---------

3 年間計画

回	日時・会場	熟議テーマ	備考
1	令和5年 5月15日 月曜日 9:00~10:30 会議室	(1) 学校運営の基本方針について 確認 (2) 夢育やらまいかCS加算分についての意見 書について (3) 学校運営協議会の自己評価について (4) 学校運営協議会の支援について	
2	6月14日 水曜日 13:20~14:50 会議室	(1) キャリア教育を生かした特色ある学校づく り (2) 課題の整理と改善の方向性 (3) 学校評価アンケートの評価項目 ※PTA 参観会視察	
3	9月11日 月曜日 9:00~10:30 会議室	(1) 学校評価と課題の改善策について (2) 支援活動の具体化について	自己評価用紙の 配付
4	2月13日 火曜日 9:00~10:30 会議室	(1) 学校の自己評価 自己評価説明⇒改善策について熟議 ⇒次年度へ (2) 次年度学校運営の基本方針について 説明 熟議 承認 (3) 学校運営協議会の自己評価 (4) 夢育やらまいかCS加算分の報告	

《学校公開予定》

6月14日(水) PTA参観会	13:20~14:05
10月19日(木) PTA参観会	13:20~14:05
11月17日(金) 学習発表会	9:25~12:10
2月16日(金) PTA参観会	13:20~14:05

《ピア・サポート活動》

5月25日(木)	10月26日(木)	1月25日(木)	
※いずれも			9:20~12:05 体育館

令和5年度 第1回 東小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年5月15日（月） 午前9時から午前10時40分まで
- 2 開催場所 東小学校 1階 会議室
- 3 出席委員 高木 邦子、小名木 秀雄、松下 克幸、今中 秀裕、中川 清子、
中村 将義、杉山 晴康、大脇 加名、竹山 有希
- 4 欠席委員 なし
- 5 学 校 大石 泰三（校長）、杉山 章子（教頭）、
船越 裕康（CS担当教職員）、原 真衣子（CSディレクター）
- 6 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 原 真衣子
- 9 議長の選出
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、杉山委員から小名木会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。
- 10 協議事項
（1）学校運営の基本方針について
（2）東小いじめ防止基本方針について
（3）夢育やらまいか事業CS加算分に対する意見書について
- 11 会議記録
司会のCS担当教職員から、委員総数9人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）学校運営の基本方針について

■ 説明（校長）

- 学校教育目標である『やさしさ 元気 夢いっぱい』に向け、昨年度の反省をふまえて取り組んでいく。
- 『やさしい子』を育てる。時と場を考えた挨拶を進んで行えるよう声掛けをしていくことに加え、ピアサポートを活用していく。ピアサポートは、子どもたちの集団の中で、お互いを認め合えるように促す活動である。みんなが自分の意見を発信し、お互いの意見を認め合うことで、安心して自分の意見を述べられる本気の対話を全員が行えるような雰囲気を作っていく。
- グランドデザイン『やさしい子 進んで学習する子 元気な子』のそれぞれの目標に対して、重点を2つずつあげている。最終目標に向け低学年のうちから成長段階に応じて段階的に達成目標を立てていく。各学年ごとに目指す子供像、実態、手立てを考え、学期ごとに振り返りを行うことで、計画的に進めていく。

■ 熟議

- 挨拶をする、宿題をするといった、やるべき事を当たり前に行えるようにしたいが、ギブアンドテイクでないと反応が薄い。良い条件付けがあると、子どもたちの意識も高まるのでは。(松下委員)
- どんな子でも素晴らしい一面を持っている。褒められることが少しあるだけで違う。声掛けが大事である。(中川委員)
- コロナ禍で活動が制限されている中であつたが、その枠の中で子どもたちは精一杯頑張っていた。制限が明けた後、どのように変化していくか見守りたい。(中村委員)
- 具体的なフィードバックが重要で、物より褒め言葉が大切である。誰かが褒められたという事を先生方も知っていることが大事なのではないか。また、子どもたちは相手が傷つかない言い方を考えて、自分の意見を言うということはとても大切である。(高木委員)
- コミュニケーションスキルを身につけるのが難しい。相手が嫌だろうと思うと何も言えない子もいる。いいところを見つけるのは大事だが、粗探しになっていじめにつながらないよう配慮も必要。(今中委員)
- 親は子供をきちんと認めているのか、またきちんと褒めているのか。認められていると子どもたち自身が感じられることが重要では。(杉山委員)
- 学校へお褒めの言葉をいただくことがあるが、そのときはすぐに本人に伝えるようにしている。例えば、元気に挨拶してくれたとお褒めの言葉があつたと知ると、それが周りの子にも広がって他の子ども達もやり始めるといった効果がある。(校長)
- 子育てが一段落して思うのは、もっと子供を褒めたら良かったなということ。地域に子供のことをよく見て褒めてくれる人がいた。そういう人が地域にいと、子供たちにとっても良いのではないか。(大脇委員)
- 挨拶してもいいのかなとためらっている子がいるように感じる。こちらから挨拶すれば返してくれるが、なかなか自分から言えない子がいるのも事実。(竹山委員)
- 以前は地域みんなで子供を気にかけていた。今は自分の子供以外に無関心になってしまっている気がする。浜松祭は地域の見守りにもなり、評価もしてあげられる場にもなっている。地域が密になっていきたい。(杉山委員)
- 学校での体験活動が多くあるといいのではないか。今は親が与えなければ子供が様々なことを体験する機会が少ないように感じる。(中村委員)
- 親や学校が準備しすぎると、子供が受け身になり、待っているだけの子になってしまうこともある。バランスが難しい。(高木委員)

(2) 東小いじめ防止基本方針について

■ 説明(校長)

- いじめはいつでもどこでも起こりうるという意識を常に持ち、子どもたちの様子を見て対応・判断していく。今まではただのけんかと判断していたものも、本人が苦痛を感じている場合はきちんと聞き取り等をして基本方針に則って対応する。
- 未然防止への取り組みは、道徳の時間の活用、ピアサポート活動を行うことで、子どもたちがお互いを認め合える雰囲気を作っていく。

- いじめの早期発見では、常にアンテナを高くし、目を配ることが重要であると考えている。また、生活アンケートに加え、今年からは教育委員会のタブレットを使用したアンケートを導入し、対応が必要な子がすぐに分かるようにする。アンケートについては、家と学校それぞれで実施する。
- いじめへの対応は保護者の方も気になる点であるため、どのようにいじめに気づき、調査を行うのかを発信している。

■ 熟議

- 学校の中だけでなく、地域や家庭でいじめが分かることもある。そういった情報を学校と共有していくことが重要である。(今中委員)
- いじめの兆候などの情報を、地域や家庭からも学校に寄せてほしいということを伝えていってはどうか。(高木委員)

(3) 夢育やらまいか事業CS加算分に対する意見書について

教頭から、子どもたちの体験活動に使っていく計画であると説明があった。子どもたちが地域へ出向いて体験学習を行う、また学校に来ていただいて体験学習を行う機会を設定していくことを確認した。

○ 学校支援コーディネーターからの報告

クラブ活動の講師を新たに4名地域の方をお願いした(囲碁・工作・パソコンクラブ)。活動は6月から始まる予定である。

○ その他

司会から、次回会議は、令和5年6月14日(水)午後1時20分から東小学校会議室で開催する旨の報告があった。当日は参観会があるので、子どもたちを直接見ていただけるいい機会であると考えている。

次回議長については、会長から中村議員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。



コミュニティ・スクールだより

令和5年5月23日



令和5年度第1回目の協議会を開催しました

5月8日（月）より新型コロナが「5類」に移行されました。学校では、それに伴い基本的な感染症対策は維持しながら、以前の教育活動を取り戻しつつあります。

さて、さる5月15日（月）に令和5年度 第1回学校運営協議会が開催されました。本校は、昨年度より「学校運営協議会」が設置され、「コミュニティ・スクール」となっています。（「学校運営協議会」が設置された学校を「コミュニティスクール」といいます。）昨年度は、学校便りを通して「学校運営協議会」の協議内容をお知らせしてきましたが、2年目を迎えた本年度より、新しく「コミュニティ・スクールだより」として、協議会の協議内容やお知らせなど、保護者・地域の皆さんにお伝えしたいと思います。

【学校運営協議会の主な機能】 ※浜松市学校運営協議会規則より

- ①校長が作成した学校運営の基本方針を承認する。（本年度の方針について、昨年度第4回協議会において、承認されています。）
- ②学校運営について教育委員会や校長に意見を述べるができる。
- ③教職員の任用に関して教育委員会に意見を述べるができる。

【学校運営協議会委員】

会長 小名木秀雄（アクト地区自治会連合会会長）
 副会長 高木邦子（静岡文化芸術大教授）
 委員 松下克幸（東サッカースポーツ少年団団長） 今中秀裕（市民協働センター長）
 中川清子（放課後児童会指導員） 中村将義（PTA 相談役）
 杉山晴康（浜松市民生委員児童委員協議会会長）
 委員・学校支援コーディネーター
 大脇加名（元PTA役員） 竹山有希（元図書ボランティア）

【学校職員・教育委員会】

校長 大石泰三 教頭 杉山章子 CS担当職員 船越裕康 CSディレクター 原真衣子
 教育委員会教育総務課 鈴木陽子

《第1回学校運営協議会 式次第》

- 1 会長挨拶 2 校長挨拶
- 3 浜松市学校運営協議会規則・学校運営協会自己評価について
- 4 自己紹介 5 議長の選出 6 前回の会議録確認
- 7 熟議
 - (1) 学校運営の基本方針について
 - (2) 東小いじめ防止基本方針について
 - (3) 夢育やらまいか事業CS加算分に関する意見書について
- 8 学校支援コーディネーターからの活動報告
 ☆ポプラ講座の講師4名を新たに地域の方にお呼びしました。
- 9 連絡

「熟議」が、学校運営協議会の中心となる協議となります。
 このたよりでは「熟議」の内容について、主にお知らせしていきます。

《熟議》

(1) 学校運営の基本方針について

☆前回承認されている基本方針に基づいて熟議していただきました。

子供のよさや頑張りを周りの大人が共有すると、子供はいろいろな人にほめられるため、意欲や自信につながりますね。

物を与えるより「ほめ言葉」が大切です。

東小の子供たちは、親に認められているのでしょうか。期待が大きいとほめることが少なくなりがちです。



子育てを終えて振り返ると、もっと子供をほめればよかったなと思います。家庭でたくさんほめてあげるといいと思います。

以前は地域みんなが子供を気にかけてくれた。今は自分の子供以外に無関心になっている気がします。

浜松まつりは、地域の見守りにもなるし、子供をほめる場にもなりますね。

よい表れを、家庭、地域、学校で共有し、子供たちをたくさんほめていきましょう。

「キャリアパスポート」には、子供が頑張りたいことや振り返り、保護者からの励まし等を記入しています。子供たちを認める機会にもなりますね。

(2) 東小いじめ防止基本方針について

☆本校のいじめ対策、いじめ防止について熟議していただきました。

学校は、道徳の時間、ピアサポート活動、生活アンケートの活用、今年からタブレットを使ったアンケート調査等を使って、未然防止に努めます。また、いじめの生まれにくい学級・学校風土づくりに努めています。

学校だけでなく、地域や家庭でいじめが分かることがあります。連携を強めていきましょう。

もしいじめの兆候があったら、地域や家庭からも情報が寄せられるといいですね。

(3) 夢育やらまいか事業 CS 加算分に対する意見書について

☆加算分の用途について熟議していただきました。

子供たちの体験活動に使っていく予定です。染め物体験やはんこ彫り体験等、講師をお招きする際に使います。

子供たちにとって、体験活動は貴重な場になりますね。

次回の学校運営協議会は、6月14日(水)13:20から行います。傍聴できますので、御希望の方は、学校まで(452-3137)お知らせください。

令和5年度教育構想より一部抜粋

5 特別活動を要としたキャリア教育の推進と充実

本校は平成30年度より、キャリア教育の推進に力を入れて教育活動を行ってきた。令和2、3年度は、「挑戦する力(課題解決能力)」と「かかわる力(人間関係形成能力)」の育成、令和4年度は「見つめる力(自己理解・自己管理能力)」と「かかわる力(人間関係形成・社会形成能力)」に重点を置いて研修を進めた。特に、特別活動、総合的な学習の時間、生活科を中心として、教科学習とのつながりを考えながら、より効果的な学びを展開することを目指してきた。また、浜松市教育委員会からキャリア教育実践モデル校の指定を受け、実践に取り組んできた。

本校卒業生の八幡中学校への進学率は50～70%である。他校に比べると国立・県立・県内外私学の中学受検をする比率が高い。それは、他県、他地区から転入してきた家庭が多い地域性や交通の利便性によるものが大きいと考える。ただ、見方を変えれば本校児童には、中学進学時点から自らの将来を見通し、「自分の道」を歩もうとする明確な意思が認められ、それが高い受検率に表れているともいえる。つまり、一人一人に「自分らしさ」への意識を高めるとともに、他者を大切にしながら交流を深め、自らの夢や目標を抱けるように導くキャリア教育の実践は、本校児童にとって、様々な活動を自分事として捉える機会をより多く生み出すことにつながると考える。

そこで、令和5年度も、キャリア教育を、学校、家庭、地域の区別なく子供が関わるすべての活動場面(生活全般)において展開されるものであると考え、本校の教育活動を支える土台として押さえて実践を進めていきたい。また、本校が重点を置く2つの力と同様に、キャリア・パスポートをすべての活動をつなぐアイテムとして活用していく。

なお、昨年度に続き、特別活動を核として「知」「徳」「体」のそれぞれの分野からアプローチをしながら、先述した「『やってみたい』と考え、動く子」を育む教育活動を推進していきたい。キャリア教育を進めるうえで、様々な教育活動を関連させて、計画的、意図的に多角的なアプローチを試みることは、大切である。また、一人一人の、または集団の学びや表れ、現在の状態や状況を的確に把握し「いつ、どこで、どのようなアプローチをすること」が成長や変容に有効かを考慮しながら、教育活動を進めていくことも同様である。5年間の積み上げによって、本校職員には、そうした基本的な意識や手立ては浸透してきていると考えられる。ただ、ここ3年は、授業実践の参観や教科学習の充実に向けての協議が十分行えず、教育活動の軸をなす教科の授業改善に取り組み切れていない感がある。

したがって、特別活動を核とすることで、授業改善を図ろうとする取組を継続して行う。つまり、主体的に課題解決に取り組ませやすい学級活動や各種行事において、子供の「やってみたい」という願いや思いをより多く引き出し、それらに取り組ませることで、教師が、教科学習等においても子供たちが「やってみたい」と思う単元計画を開発し、子供たちの主体的・対話的で深い学びを進めるための活動を見出す足掛かりにす

る。このキャリア教育で重点とする取り組みが、教科学習の充実へとつながっていけば、子供たちのより大きな成長だけでなく、教師の授業改善やキャリアアップにも大きな成果が上げられると期待している。

6 新しい教育活動の確実な実践

令和5年度は、ICT教育とピア・サポートに重点をおいて進めていきたい。

第1に、タブレット端末のより効果的な活用についてである。コロナ禍においてオンライン授業、Google classroom等、国の方針を受けて浜松市におけるICT教育に関わる環境は、大きく前進した。ICT機器を子供たちの学びを充実させる文房具の一つとしてより効果的に活用するために、令和4年度までに本校が積み重ねてきた実践を生かしながら、本校の実態に合わせた活動を計画し、実践していく。さらに、最新の情報を収集・分析しながら、より効果的で、効率の良い活動を積極的に進めていきたい。

第2に、ピア・サポート活動の充実である。本年度キャリア教育の重点とする「見つめる力」と「かかわる力」は、それぞれ「自己理解」と「他者理解」が土台となると考える。また、主体的・対話的で深い学びや協働的な学びでは、他者との交流の中で学習が進行していく。その学び方は、単に互いを称賛し合ったり、意見を肯定し合ったりしているのみの交流ではない。多様な意見が出され、時には対立したり議論したりすることなしに、対話的な学びも協働的な学びもその先にある深い学びも起こることはないはずである。教室において子供たちが自分の考えを安心して表現し、不安や疑問、時には批判的な意見を伝えても尊重され、学び合える。そのような「心理的安全性」の確保された学級・学校風土を育てていくことが大切である。それらを効果的に育む上で、ピア・サポートの理念や活動は、大変有効に機能すると捉えている。コロナ禍により、他者との協働の場や共感の場は制限され、本来は学校・学級という濃密な他者との関わりの中で育まれるべき力が十分育っていないのが現状である。自己を見つめ、他者を知る経験を積むことのできるピア・サポート活動を計画・系統的に教育活動に組み込んでいくことで、「見つめる力」と「かかわる力」の育成を助長し、本校の教育活動をより充実させることができると考える。

「やってみたい」のコントロールを

本年度も、子供たちの「やってみたい」を大切に、教育活動の充実をお願いします。

年度初めにあたり、「やってみたい」の共通理解を図っておきましょう。

「やってみたい」は・・・「何でも好きなことをやっていい」ではありません。

「やりたいことなら何でもやっていい」ではありません。「やってみたい」の原則は？

学校で、教育活動としてやる以上は、学校教育目標「やさしさ 元気 夢 いっぱい」の達成、『「やってみたい」と考え、動く子」に向かう教育活動の1つです。

① 教師の指導計画のもとに行われること

- ねらい、目的は何か。(後付けは×です)
- 他の授業時間に食い込んでいないか。
- 無駄な費用を浪費していないか。
- 安全は確保されているか。
- 今すべき(必要な)活動か。
- 適切な実施時期・実施回数は考慮されているか。
- 単発ではなく、他の活動との関連はあるか。
- 意図した児童の成長と変容が認められるか。

② 教師が、子供の思いに流されず、必要に応じて理由を話し、枠を超えた意見をコントロールする(納得させて)こと

- どんな学びがあるのか。※キャリア教育の視点を含めて
- 学校で、授業でやるのに適切な内容か。
- 活動を決定、実施するためのルール(枠)を明確に示しているか。
- 担当の教師が、子供たちの成長や変容のために「今、絶対に欠かせない活動だ」と語れるか。

③ 他学年・他学級にマイナスの影響を与えないこと。皆の理解が得られること。

他学年・他学級の子供が見て、「あのクラスの活動は楽しそうだからやりたい。」「兄・姉のクラスでやっている活動は、面白そうだからやってみたい。」等は、ねらいや目的が本来目指すものとは違う。すると、後付けの理由が付く。

- 他学級・他学年の学習活動に迷惑をかける活動はしない。(場所の占領・奇声・騒音等)
- 教員・保護者・地域の方等、誰が見ても、誰に説明しても「それはやる意味がある」「それはとても価値のある活動だ」と納得させられる。

※子供たちの思いのままに、教師のコントロールなく、計画を大幅に超えた時間を使って計画にないことを行うのは「やってみたい」とは違います。各学年、各クラスで、今一度、取組の確認をお願いします。

令和5年度 浜松市立 東小学校 キャリア教育全体計画

浜松の教育
 〈はままつ人づくり未来プラン三つの重点〉
 ・キャリア教育
 ・市民協働
 ・教育の情報化
 〈八幡中学校区目指す子供像〉
 夢と希望をもち、たくましく生きる子供

学校教育目標
やさしさ 元気 夢 いっぱい

児童の実態
 ○意欲的に学習する
 ○様々なことに興味・関心がある
 ○自分の意見をはっきり言う
 ・話を聞くことが苦手である
 ・粘り強さに欠ける

目指す子供の姿
 「やってみたい」と考え、動く子

校長の経営方針
 「見つめる力」と「かかわる力」の育成に重点を置き、特別活動を核として「知」「徳」「体」のそれぞれからアプローチしながら「やってみたい」と考え、動く子を育む教育活動を推進していく。

本年度のキャリア教育

	見つめる力（重点） （自己理解・自己管理能力）	かかわる力（重点） （人間関係形成・社会形成能力）	挑戦する力 （課題対応能力）	つなげる力 （キャリアプランニング能力）
	①自己の個性を理解する力 ②自己の動機づけ ③粘り強さ ④前向きに考える力	①挨拶、返事 ②他者の個性を理解する力 ③他者に働きかける力 ④ピアサポートスキル	①情報の理解・選択・処理 ②課題を発見する力 ③計画を立案する力 ④実行する力	①学ぶこと、働くことの意義や役割の理解 ②多様性の理解 ③将来設計
低学年	やってみたいことを見付ける。（見②）	話す人の方を向いて話を聞いたり、相手に聞こえる声で話をしたりする。（か③）	何が課題なのか分かる。（挑②）	学校でのいろいろな活動を楽しむ。（つ①）
中学年	やってみたいことについて、目標を決めて活動を行い、振り返りをする。（見②）	友達や先生の話最後まで聞いたり、自分の考えを整理して伝えたりする。（か③）	自分自身の課題を見付ける。（挑②）	いろいろな考えがあることを知り、認める。（つ②）
高学年	やってみたいことについて、活動の目標を振り返り、自分なりに修正して、次の目標を決める。（見②）	互いの個性を認め合い、協力し合う。（か②）	必要に応じて計画を修正しながら、自分でまたは友達と共に課題の解決に取り組む。（挑④）	いろいろな考えがあることを肯定的に認め、励まし合う。（つ②）

教科・領域等

〈特別活動〉（キャリア教育の要）
 ○一人一人のキャリア形成と自己実現 ・現在や将来に希望や夢を持って生きる態度の形成
 ・社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解 ・主体的な学習態度の形成と学校図書館等の利用
 〈各教科〉
 ○課題解決的な学習、協働的な学習、基本的な学び方
 〈道徳〉
 ○思いやりや感謝の心、自らを律しつつ自己向上の精神
 〈生活科・総合的な学習の時間〉
 ○公園・協働センター・商店・大学等での校外学習 ○地域の働く人、匠、自治会長等との交流

ひがししょう こども み つ き そ て き はんようてきのうりよく
東 小 の 子 供 ち だ ち に 身 に 付 け さ せ たい 基 礎 的 ・ 汎 用 的 能 力

み ちから じ こ り かい じ こ かんりのうりよく
見 つ め る 力 (自 己 理 解 ・ 自 己 管 理 能 力)

じぶん が 「 できること 」 「 意義を感じること 」 「 したいこと 」 について、しゅたいてき こうどう
 今 後 の 成 長 の た め に 進 ん で 学 ば う と し た り す る 力 。

○ じぶん こせい りかい ちから **自 己 の 個 性 を 理 解 す る 力** 見 ①

○ じこ どうき **自 己 の 動 機 づ け** 見 ②

○ ねば つよ **粘 り 強 さ** 見 ③

○ まえむ かんが ちから **前 向 き に 考 え る 力** 見 ④

ちから にんげんかんけいけいせい しゃかいけいせいのうりよく
か か わ る 力 (人 間 関 係 形 成 ・ 社 会 形 成 能 力)

たよう かんが たちば りかい あいて いけん き じぶん かんが せいかく つた
 多 様 な 考 え や 立 場 を 理 解 し、相 手 の 意 見 を 聴 い て、自 分 の 考 え を 正 確 に 伝 え る こ と が 可
 と と も に、自 分 の 置 か れ て い る 状 況 を 受 け 止 め、役 割 を 果 た し つ つ、他 者 と 協 力 ・ 協 働
 す る こ と が 可 べ る 力 。

○ あいさつ へんじ **挨拶、返 事** か ①

○ たしゃ こせい りかい ちから **他 者 の 個 性 を 理 解 す る 力** か ②

○ たしゃ はたら ちから **他 者 に 働 き か け る 力 (コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ス キ ル)** か ③

○ ピアサポートスキル か ④

ちょうせん ちから か だ い たい お う の う り よ く
挑 戦 す る 力 (課 題 対 応 能 力)

さまざま かだい はっけん ぶんせき てきせつ けいかく た かだい しょうり かいけつ
 様 々 な 課 題 を 発 見 ・ 分 析 し、適 切 な 計 画 を 立 て て そ の 課 題 を 処 理 し、解 決 す る こ と が 可
 べ る 力 。

○ じょうほう りかい せんたく しょうり **情 報 の 理 解 ・ 選 択 ・ 処 理** 挑 ①

○ かだい はっけん ちから **課 題 を 発 見 す る 力** 挑 ②

○ けいかく りつあん ちから **計 画 を 立 案 す る 力** 挑 ③

○ じっこう ちから **実 行 す る 力** 挑 ④

ちから のうりよく
つ な げ る 力 (キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ング 能 力)

いいんかい かかりかつどう じぶん は やくわり じぶん み つ すす じっせん
 委 員 会 や 係 活 動 な ど、自 分 が 果 た す べ き 役 割 や 自 分 に 可 べ る こ と を 見 付 け て 進 ん で 実 践 し
 た り、目 標 を 持 っ て 努 力 し よ う と し た り す る 力 。

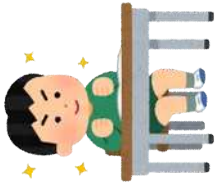
○ まな はたら もくてき いぎ りかい **学 ぶ こ と ・ 働 く こ と の 目 的、意 義 の 理 解** つ ①

○ い かた たようせい りかい **生 き 方 の 多 様 性 の 理 解** つ ②

○ しょうらい ちから **将 来 に つ な げ る 力** つ ③

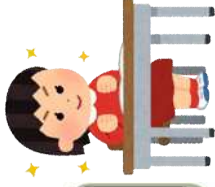
		ていがくねん 低学年	ちゅうがくねん 中学年	こうがくねん 高学年
見 つ め る 力	見① 自分の個性を理解する力	自分の良いところを見付ける。	自分の良いところを見付け、 今後に生かそうとする。	自分の良さを見付けるとともに、 自分の個性とは何かを考え、今後 に生かそうとする。
	見② 自己の動機付け	やってみたいことを見付け る。	やってみたいことについて、 目標を決めて活動を行い、 振り返りをする。	やってみたいことについて、活動 の目標を振り返り、自分なりに 修正して、次の目標を決める。
	見③ 粘り強さ	自分がしなくてはいけない ことは、最後までやる。	自分の決めた目標に向かっ てあきらめないで最後まで 努力をする。	自分の決めた目標に向かって 最後まで努力して取り組んだ過程 を振り返り、次に生かす。
	見④ 前向きに考える力	「できない」と決めつけな いで行き詰まる。	「できない」と決めつけな い、「できそうなこと」を考え る。	「できない」と決めつけな い、「できる方法」を考え、前向きに 取り組む。
か か わ る 力	か① 挨拶、返事	身近な人に、顔を見て元氣 な挨拶や返事をする。	誰に対しても、顔を見て元氣 な挨拶や返事をする。	相手の顔を見て、時と場を考 えた挨拶や返事をする。
	か② 他者の個性を 理解する力	友達の良いところを見付け る。	友達の良いところを見付け、 その良さを認め合う。	互いの個性を認め合い、協 力し合う。
	か③ 他者に 働きかける力	話す人の方を向いて話を 聞いたり、相手に聞こえる 声で話をしたりする。	友達や先生の話をも最後まで 聞いたり、自分の考えを整理 して伝えたりする。	目的に応じて他者に働きか けたり、調整をしたりして、 互いを理解し合い、コミュニ ケーションをとる。
	か④ ピアサポート スキル	友達と仲良く、力を合わせ る。	相手のことを思いやり助け合 える。	相手の立場を理解し、よりよ い方向へ向かうよう協力す る。
挑 戦 す る 力	挑① 情報の理解・ 選択・処理	読んだり、聞いたりしたこ とをもとに、必要な情報を 選ぶ。	目的に応じて情報を集め、多 くの情報から、必要な情報 を選ぶ。	目的に応じて情報を集め、 必要な情報を選び、整理して 活用する。
	挑② 課題を 発見する力	何が課題なのか分かる。	自分自身の課題を見付ける。	学校生活の中の課題や自分 自身の課題を見付ける。
	挑③ 計画を 立案する力	課題の解決の仕方を考え る。	見付けた課題を解決するた めの計画を立てる。	見付けた課題を解決するた めに、自分または友達と共 に活動する計画を立てる。
	挑④ 課題の 実行する力	課題の解決に取り組む。	計画に沿って、課題の解決に 取り組む。	必要に応じて計画を修正しな がら、自分または友達と共 に課題の解決に取り組む。
つ な げ る 力	つ① 学ぶこと、 働くことの意義 や役割の理解	学校でのいろいろな活動を 楽しむ。	学校でのいろいろな活動に 喜びを感じる。	みんなのために活動すること の楽しさや喜びを感じる。
	つ② 多様性の理解	いろいろな考えがあるこ とを知る。	いろいろな考えがあること を知り、認め合う。	いろいろな考えがあること を肯定的に認め、励まし合う。
	つ③ 将来設計	将来にやってみたいこと がぼんやりある。	いろいろな職業があること を知り、将来やってみたいこ とがぼんやりある。	社会とのつながりを知り、 将来の自分を思い描き、すべ きことを考える。

やさしさ 元気 夢 いっぱい



目指す子供の姿

「『やってみたい』と考え、動く子」



やさしい子

進んで学習する子

元気な子

高学年

相手の顔を見て、時々と場を考えたあいさつや返事をする。

互いの個性を認め合い、協力し合う。

目標を決めて学習に取り組み、振り返りをし、次の活動の意欲につなげる。

相手の意見を最後までで聞き、自分の考えを深める。

自分の心と体をコントロールし、落ちついた生活をする。目標に向かって、あきらめずに運動する。



中学年

誰に対しても、顔を元気に挨拶や返事をする。

友達の良いところを見付け、その良さを認め合う。

目標を決めて学習に取り組み、振り返りを行う。

相手の意見を最後までで聞き、自分の考えをもつ。

自分の心の様子が分かって、落ちついた生活をする。自分に合った目標を決めて運動する。



低学年

身近な人に顔を元気にあいさつや返事をする。

友達の良いところを見付ける。

目標を決めて学習に取り組み、相手の意見を最後までで聞く。

自分の心の天気分かる。体を動かす楽しさを味わう。